

# ワールドワイド携帯電話四半期動向

2012年2月8日報告

## 2011年4Q(10-12月)調査結果 目次

1	2011年4Q 結果の要約	3	6.3.	2012年メーカー別端末販売予測	25
2	1-3月の出荷、販売見通し	4	7	Nokiaの2011年4Q動向	27
3	地域別累積加入推移(四半期別)	6	8	Samsungの2011年4Q動向	30
3.1.	2010年の地域別加入修正	9	9	LGの2011年4Q動向	33
3.2.	主要4カ国加入推移	11	10	Sony Ericssonの2011年4Q動向	36
4	方式別加入推移(四半期別)	13	11	Motorola Mobilityの2011年4Q動向	38
4.1.	2010年の方式別加入修正	16	12	Smart Phoneメーカーの2011年4Q動向	41
5	2012年加入者予測	18	12.1.	Apple	41
5.1.	地域別	18	12.2.	Research in Motion	42
5.2.	方式別	19	12.3.	HTC	43
6	端末販売動向推移	20	13	端末各社の出荷計画	44
6.1.	2011年4Q端末販売動向	20	14	製品在庫状況ほか	45
6.2.	2011年4QのSmart Phone販売動向	23			

## 2011年4Qの世界の携帯電話市場概況

### 加入者数推移

2011年末の累積加入件数は55.76億件、年間の新規加入件数は5.13億件に達した。新規加入件数は前年に対して1.6億件下回った。4Qでは中国、ブラジル、ロシアが前期に対し新規加入件数を伸ばしたが、インドは前期の新規加入件数を下回った。インドの方式別ではGSMが順調に新規加入件数を伸ばしたのに対し、CDMAは累積ベースで前期9月末の

数値を下回った。オペレータによるユーザ整理を実施した公算が高い。LTEは2011年12月末現在で1,000万件を突破したものとみられる。LTEをリードしているのはVerizon(2011年12月末556万件)、NTTドコモ(114万件)、韓国SKT、LG U+(合わせて120万件)になる。

WiMAXでは最大手の米国Clearwireが12月末で1,040万件の累積加入を達成しており、2011年末時点の累積加入ベースではWiMAXがLTEを上回ったことになる。

## 端末需要

10-12月期はクリスマス需要期に当たるためキリスト教圏中心に端末販売を伸ばした。4QはSmart Phoneの買い替え需要が牽引した。

大手メーカーではSmart Phoneの販売ウエートが高まったためApple、Samsung、LGのASP(平均販売価格)が上昇、一方値引きの影響でSony Ericsson、RIM、HTCは前期に対しASPを下げた。

端末部門の収益率はNokiaを除く大手各社が前期水準を下回った。AppleはiPhone単独の収益性を発表していないが、前期水準を上回ったものとみられる。Sony EricssonとMotorolaは営業損失を記録、LGは7期振りに黒字を回復した。

Appleは例年夏場に新モデルを投入していたが、2011年は初めて10月にiPhone 4Sの店頭販売を開始した。結果的に4Qで過去の四半期で最大の販売台数を記録したことを踏まえると、今後Appleの新モデルのリリースタイミングに影響を与える可能性が高い。現在Smart PhoneはiPhoneを軸に動いているため、競合各社もiPhone新モデルのリリース時期を注視しており、競合各社の開発→製品化のタイミングにも影響をもたらすことも考えられる。

Smart Phoneブームが継続している中で、Smart Phoneメーカー間のパテント訴訟問題が欧米で頻発している。Smart Phone分野ではAppleの意匠権、ソフトウェア、Microsoftのソフトウェア、携帯電話メーカーの通信技術が相互の訴訟構図になっているが、欧州では最近になってFRAND特許が注目され始めてきた。FRANDは企業が保有する特許に対して法外なライセンスの請求を戒めるもので、違反した場合標準特許の乱用として罰則規定が設けられている。現在UMTSの通信技術が標準特許として高額なライセンスの請求を認めておらず、Apple有利の状況になっているが、今後FRANDの解釈が拡大することで、訴訟問題に対する鎮静化への役割が期待されてくる。